

銀行資本の大小行數資本金 (單位千圓)

行數	十萬圓未満		十萬圓以上		五十萬圓以上		一〇〇萬圓以上		五百萬圓以上		總計	
	公稱資本	行數	公稱資本	行數	公稱資本	行數	公稱資本	行數	公稱資本	行數	公稱資本	行數
大正8年	302	14,441	498	57,868	331	315,297	25	136,000	26	308,700	—	—
昭和1年	168	7,689	408	78,572	741	795,579	50	291,135	45	583,771	8	622,200
5年	51	2,427	138	27,240	502	603,213	43	268,088	41	554,178	7	570,700

同上割合%

大正8年	25.5	13.7	42.1	8.2	28.0	29.6	2.1	12.8	2.1	47.9	—	100
昭和1年	11.8	3.2	28.7	3.3	52.1	33.5	3.5	12.3	3.2	24.2	0.6	26.1
同 5	6.5	1.1	17.6	1.3	64.1	29.6	5.5	12.1	5.2	27.2	0.9	28.5

預金の増加 單位百圓

年月	普通	特種	貯金	合計	郵便	信託	總計
5 12	8,659	1,292	1,541	11,492	2,337	1,173	15,002
6 12	8,174	1,155	1,636	10,965	2,689	1,218	14,782
7 6	7,759	1,306	1,601	10,666	2,977	1,197	14,740
8 7	7,677	1,399	1,621	10,697	2,579	1,196	14,692
12 8	8,192	1,346	1,687	11,165	2,704	1,290	15,089

斯様な数字は資本の急進な集中を表現したもので日本の資本主義も斯る統計上から既に高度の發展を遂げていると言へる。

次に貸出及び預金の数字に依り金融の情勢を見れば預金額において一九三〇年末から三二年にかけ著しく減少し普通銀行預金においては三二年三月と前年度の比は正に八億六千五百萬圓の激減をみたのである。三二年半以降において漸次立ち直りの傾向を示してゐるがこれはインフ

レに依る影響とみるべきで、一九二九年末の二五・一億に比すれば未だ多く相違がある事を知るのである。更にこれを眞實の景氣回復の形としてみればどうかは貸出の情態から考察するのぞなければ即断は出来ない、郵便貯金の三二年八月以降の激減は利子四分二厘から三分への切り下げから普通銀行へ入れ替へたものとみるべきであろう。

貸出は減少してゐる

インフレーション景氣と云ふ奴の影響として預金の増加をみた我が國各種銀行の貸出の状態は生産指數の増大にも不拘漸次減少を見てゐる。

年月	普通	特種	貯銀	計
5 12	6,953	3,752	477	11,182
6 12	6,549	4,025	467	11,041
7 1	6,538	4,008	460	11,006
同 6	6,306	3,981	431	10,718
同 12	6,176	3,854	406	10,436

即ち預金の増大に比して貸出しの減少は我が國資本主義全體の不安定を物語るものであつて、未だ信用の膨脹は起

つてゐない事の證明であらう、否學の信用の收縮の状態であつて、これこそインフレーションが資本主義上向期のそれと著しく其の趣きを異にした、下向期インフレーションの特殊性を表してゐると言へる。

インフレーションと生産状態

我が國の經濟は急進なテンポを以つて發展した。即ち金融資本の關係においては前記の如く銀行資本の合同、統一を急ぎ生産の規模においても同様に資本の集中企業の一合同或は提携を完成してゐる、我々はこゝに金融財團の「チェルン」の形態に就いて詳しく述べる必要はない、……同志諸君の既によく追及した處だから……

インフレーションの起用された原因

だが我が國の財界は救われたのでは斷じてない。デプレッション政策の採用に依つて労働者階級は賃下げと時間の延長と失業の淵に投げ込まれた、企業は集中と統一が行はれ、ばそれだけ労働階級のうける打撃は増大し一方中小業者はこれ又急速な没落の運命を辿つた、他は外國商品は爲替相場の關係から、としまゝと國內に流入した、國産品の奨励は凡ゆる努力を通じて行われたが、これを本質的に救